

## 横須賀市立小学校・中学校での新型インフルエンザ罹患状況（第1報）

### 緒言

2009/2010 シーズンの新型インフルエンザの世界的流行を受け、横須賀市内でも例年より早い9月以降感染が拡大した。新型インフルエンザの小中学校での流行パターンを知ることがを目的に、1)罹患率の地域差の有無 2)学年による罹患率の違いについて、検討した。

### 対象と方法

対象：横須賀市立の小中学校にインフルエンザ罹患の届出のあった児童生徒で、2009年9月1日から2010年1月31日までの間に発症(発熱)したもの

方法：横須賀市立の小学校48校、中学校23校（1校はデータが不完全なため解析から除外した）の月別、学年別の罹患率データを集計・解析した

### 結果

- ① 9月から1月で、小学生9,383名(42.6%)、中学生3,316名(33.0%)罹患した（在校生数；小学生22,010名、中学生10,501名）。
- ② 罹患率の学校ごとのばらつきは、小学校48校で15.3%から59.1%（平均42.1%、標準偏差8.3%）、中学校23校で17.7%から43.8%（平均32.7%、標準偏差6.5%）であった。市内を地理的に10地域に分けて、分散分析を行ったところ、有意に地域差が見られる結果であった( $p=0.03$ )。
- ③ 罹患率のピークとなった月は、小学校では、9月0校、10月7校、11月39校、12月2校、1月0校であった。中学校では、9月0校、10月4校、11月19校、12月0校、1月0校であった。
- ④ 学年別罹患率は、小学1年43.2%、小学2年45.1%、小学3年44.5%、小学4年44.8%、小学5年39.6%、小学6年38.6%、中学1年36.7%、中学2年37.1%、中学3年25.8%で小学生、中学生ともに低学年ほど有意に高い傾向が見られた( $p<0.001$ )。

### 考察

横須賀市では、9月から1月までの5ヶ月間に、小学生は4割以上、中学生は約1/3以上が新型インフルエンザに罹患したと思われる。なお、同時期の市内のインフルエンザ病原体定点医療機関からの検体からはすべて新型インフルエンザウイルスが検出された。

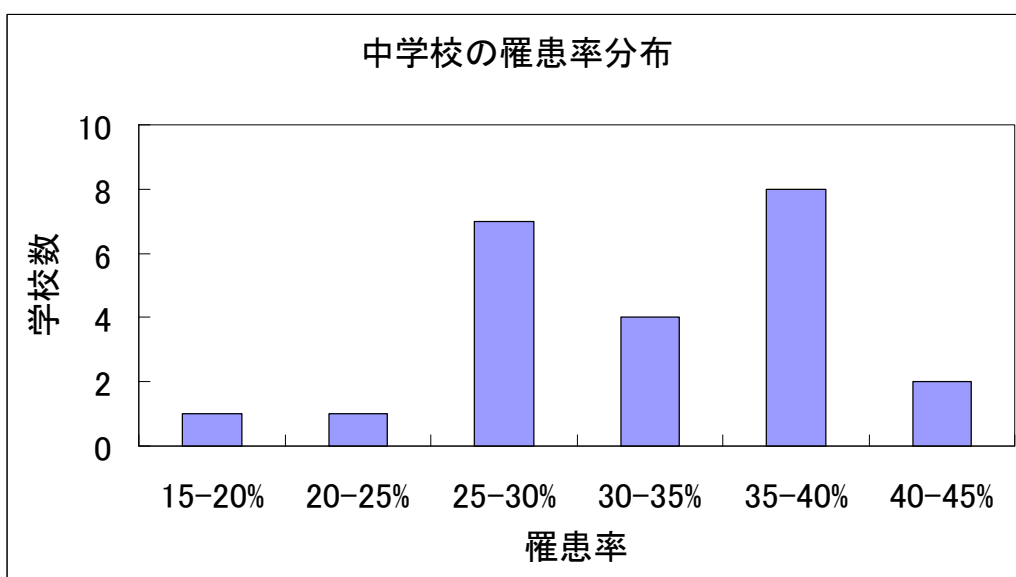
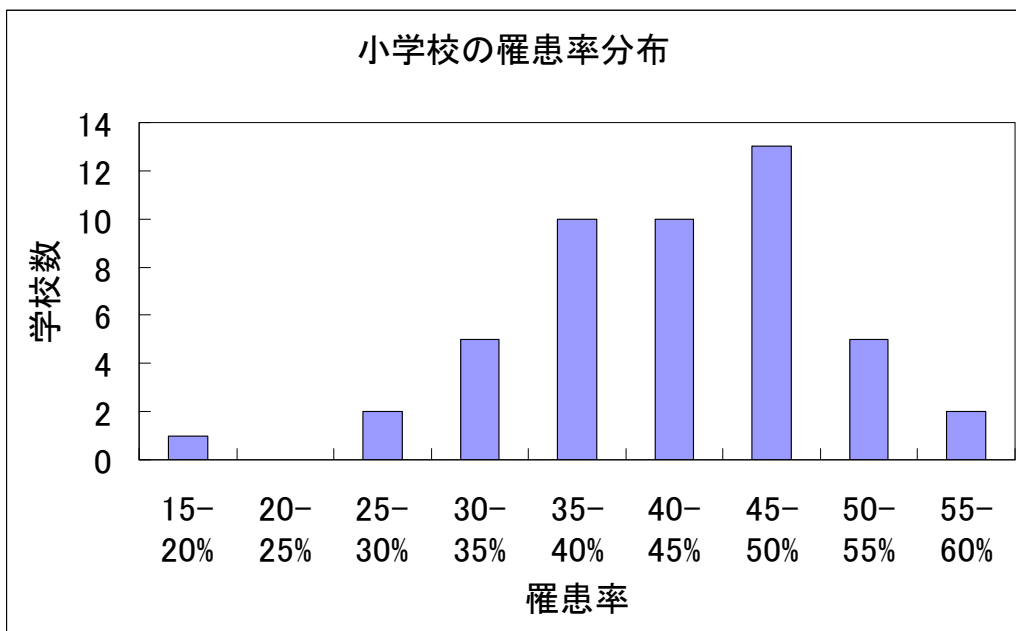
生徒・学生で免疫を持っているものはいなかったと思われるが、罹患率の学校ごとのばらつきは、小学校で4倍近く、中学校で2.5倍程度に及んだ。また、市内を地理的に10地域に分けての分散分析でも有意に地域差が見られた。市内全域に均等に流行したというよりは、地域差が見られた可能性がある。地域によって感染のリスクが異なっていたのかもしれない。

罹患率のピークとなった月は、小学校、中学校ともに11月であった学校数をもっとも多く、季節性インフルエンザより流行のピークが3ヶ月程度早かったと思われる。

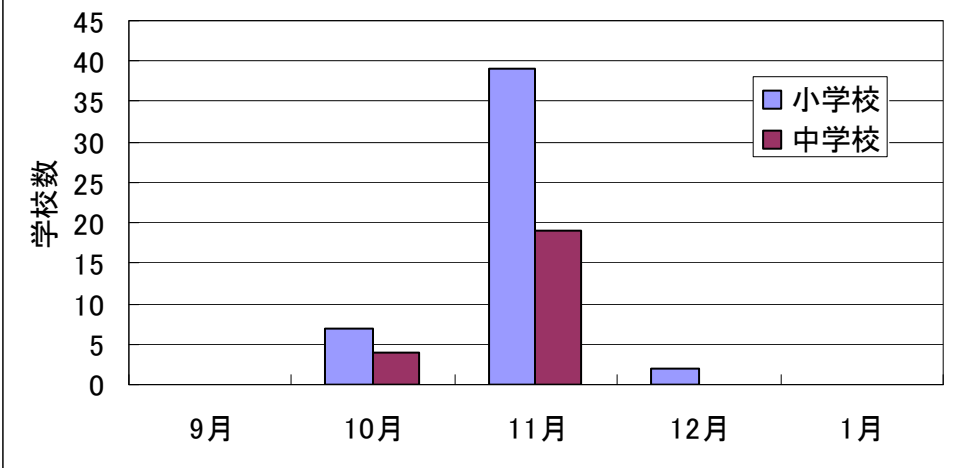
学年別罹患率は、小学生、中学生ともに低学年ほど有意に高い傾向が見られた。高学年になると感染予防行動をとることが多いことによるのかもしれない。

#### 結論

地域によって罹患状況が異なる可能性がある。また、学年別罹患率は、小学生、中学生ともに低学年ほど有意に高い傾向が見られた。



月別罹患率のピーク



学年別罹患率

